地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

Ⅰ．理念に基づく運営
　１．理念の共有
　２．地域との支えあい
　３．理念を実践するための制度の理解と活用
　４．理念を実践するための体制
　５．人材の育成と支援

Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援
　１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
　２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
　１．一人ひとりの把握
　２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
　３．多機能性を生かした柔軟な支援
　４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
　１．その人らしい暮らしの支援
　　（１）　一人ひとりの尊重
　　（２）　その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
　　（３）　その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
　　（４）　安心と安全を支える支援
　　（５）　その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
　２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
　　（１）　居心地のよい環境づくり
　　（２）　本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

Ⅴ．サービスの成果

※記入方法
　○管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
　○取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
　○サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について
　○評価項目は、１００項目です。

事業所名　グループホームげいせい

ユニット名　本館　新館

自己評価実施年月日　平成　21年　1月　10日

記録者氏名　曽　我　順　乃

記録年月日　平成　21年　1月　19日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々のケアで配慮していることや、大切にしていることを含め自己決定・生活の継続性をした理念を掲げている。	○	地域密着型として、地域を意識した理念が掲げられてない。その点の検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの実際の場面を通し、またグループホーム会などで機会があるごとに理念を意識化している。職員一人一人が、理念の実践に向けて取り組もうと努力をしている。	○	全ての職員が理解しているとはいいがたいので、今後も機会あるごとに意識化していく。職員が意識化できるところに貼る。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に運営理念を掲示している。運営推進会議のメンバーには、理念の浸透についての助言をもらったり、訪問してくれるボランティア等に説明を行っている。またグループホーム便りにて、家族にも日々の様子を伝えている。	○	地域住民への浸透を積極的にはできていない。民生委員の会などに参加した時には話をしているが、今後も継続するとともに、運営推進会議のメンバーの構成も考えていきたい。家族との交流の場をもち、話をしていく。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の集落は少し離れているので日常的な交流はできていない。ただ、知り合いの住民が病院に受診したときなどは、たずねてくれている。病院受診時や買い物時は積極的に挨拶や話をするようにしている。行政の協力で「認知症家族の会」のメンバーが来てくれるなどの交流は少しずつ図っている。	○	グループホームが法人内の敷地にあり、集落と離れていることもあり、お互いが交流することがあまりない。今後は氏神様へのお参りや地域の行事などに参加し、立ち寄ってもらう関係を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会に参加したり、地域のボランティアグループの訪問で日舞や大正琴などを通じ交流を図るように勤めている。	○	役場主催の行事や「ふれあいセンター」での催しに参加をすることを目標にしていたが、職員の人員確保が困難等であまり参加できていない。今年は少しでも参加をしていきたい。また、車椅子等の利用者が多くなっており、地域から来て貰えるような機会を多く持ちたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	村内の「地域ケア会議」や「独居老人見守りネット」の会などに職員が参加し、できることはないかを模索している。また民生員などにもグループホームができることなどをアドバイスしてもらっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人が自己評価表を記入し、共通して視点が持てるように努力している。昨年の課題をグループホーム会で話し合い改善策を検討するなど、課題を共有している。	○	課題を共有し、できるところから取り組んでいるが、全体的な改善計画や振り返りの機会がもてていない。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の開催で、課題を検討してもらっている。委員の紹介で、地域の「防災士」を紹介してもらい、災害時の非常持ち出し品や心得などについてアドバイスをもらうことができた。	○	行政の担当者や民生員協議会の会長などが参加してもらっているが、地域との連携や社会資源の活用という点では、調剤薬局や消防団、駐在所などもメンバーに入ってもらうことも健闘が必要と感じる。また家族の参加が少ないので、どのようにしていくかも課題。またスタッフとの情報共有をグループホーム会等で密にしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとは情報交換も密にあり、昨年自宅に退去する利用者の支援についてもアドバイスをもらい、また「認知症の家族会」も訪問の段取りをしてくれる等の協力を得ている。		介護支援専門員も可能な限り、地域の連絡会議に参加している。今後も機会を増やし継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム会で、契約書や重要事項説明書、個人情報の同意書などについての説明はしたが、職員一人一人が制度を十分に理解するにはいたっていない。	○	研修会などに参加したり、グループホーム会などで学習会をするなどに取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設外の研修会に職員を派遣し、伝達講習会を行っている。日々ケアの中やグループホーム会で「人権尊重」「権利擁護」について折に触れて話をしている。	○	今後も職員を研修会に積極的に参加させる。日々のケアの中でお互いに意識の向上に努めるように、細かなことでも検討をしていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は、一方的にならないように説明を行い、必要なら再度説明を行い理解を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が直接、職員や管理者に不満を言ってくれることもあるので、職員間で情報の共有を行い統一した対応を心がけ、必要に応じグループホーム会で検討をしている。	○	なかなか意見を話されない利用者や、言語化が困難な利用者に時間をかけてゆっくりと話を聞く時間を作っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに、職員異動や日々の暮らしを載せている。健康状態については家族が来たときに報告しているが、特に変化があったときなどは、その都度個別に報告している。金銭管理は、毎月残金と利用目的・領収書を送付。またホーム便りに、職員が個別に近況を書くようにしている。	○	金銭管理については、パソコン管理のために家族が来たときに、臨機応変にノート等で確認してもらうことができていない。現金を実際に確認してもらう方法を検討中。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、苦情処理委員会を開くような苦情はなかったが、運営推進会議で参加家族に意見を求めたり、運営推進会議の報告を玄関に掲示している。ケアプラン確認時等に意見を聞き、意見があれば反映している。		運営推進会議に参加できない家族や遠方の家族に対し、意見を出してもらう機会を検討していく必要がある。ホーム便りで、意見を出して欲しいと文書化しているが、他の方法も検討する必要がある。家族が話しやすい場を提供する事も今後の課題。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に１回のグループホーム会や個別の相談で、職員の意見や提案を聞き、必要ならば法人の上司に報告などを行って、検討をしている。日々の業務については、グループホーム会で検討をしている。	○	職員によっては全体の中では発言に躊躇する場合もあるので、面接等の機会を増やす事も検討したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	開設当初からの、ローテーションに加え、職員の意見から、昼食時間帯や夕方の時間などに職員の配置ができるときは配置をして、利用者の状況に対応している。現在は本館の利用者にあった職員配置が困難な時があり、新館職員が支援に来たりと、臨機応変な対応をしている。	○	利用者の身体状況にあった柔軟な対応ができるように、業務内容の整理や見直しをしているが引き続き見直しをしていく（特に本館が必要）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度は、管理者の交代や法人内の所属部署の変更などがあり、４月５月と１０月は職員の移動があったが、他の職員とのなじみの関係の中でカバーし、異動時期をずらすなどの工夫にて利用者への影響はあまりなかったと思われる。基本的にグループホームの異動は自己退職等以外は最小限にとどめている。		
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は全職員を対象に１年間の研修計画を立てて、グループホーム内での研修を行った。また、個別の自己目標をたてているので、１月～２月はそれに対する評価を行っている。法人内の研修に参加したり、法人外の研修にも人数の調整がつく限り参加をしてもらっている。	○	今年の研修を充実させて、今後も継続研修をしていきたい。また、外部の研修や、他施設との交流を通して、職員の資質向上につなげたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は機会があまり持てずに、他の施設との交流も管理者や介護支援専門員にとどまった。	○	積極的に他施設との交流を図り、職員の資質の向上につなげたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間や時間帯の見直しを行った。職員との話し合いの機会を持つように努めてはいるが、ストレスの軽減に向けた環境つくりにまではいたっていない。	○	利用者の身体的な介護負担が大きくなっている中で、グループホームの新たな役割等を職員と話し合うことの継続。職員の配置の工夫などで、有給休暇が自由に取れるなどの配慮を検討したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	面接や個別の相談をとおして、その都度アドバイス等を行ってきた。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接で利用者に話を聞いたり、見学の機会を作っている。その中で不安なことなどが出てきたら、本人に分かりやすい言葉で説明をしている。このときにグループホームの窓口となる職員は基本的に管理者が行い、なじみの関係が早くに作れるように配慮している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接で、話をよく聞き、不安等があれば納得がいくまで説明をし、こちらのペースで話を進めないように心がけている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に、入所に結びつかなくても話を傾聴し、必要なら関係機関を紹介したり、介護支援専門員に連絡したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得するまで、見学を何度かしたり、不安等を解消するように、今までに関わっていた病院関係者等が連携している。また、入所当初は家族との連絡を密にしたり、面会を依頼したりして不安の解消に努め、職員もなじみの関係が早く構築できるように、情報を共有し統一した対応を心がけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は家族みたい」と職員の言葉があったが、利用者から慰められたり、注意されたりとお互いが支えあう関係ができていると思う。利用者は人生の先輩として、色々と教えてもらったり、地域の古い話を聞かせてもらう中で、時間の共有を図っている。	○	特に本館の利用者が、身体介護の比重が大きくなり、言語でのコミュニケーションが図りつらくなっている。職員とコミュニケーションをとるということについて話を深めていきたい。職員は利用者との関係に自己満足で終わらないように、感謝の気持ちも大切にしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時には積極的に声賭けを行い、近況報告などの情報提供に努めている。家族が話しやすい雰囲気を作るように心がけている。	○	行事のときなどに参加してもらうように、積極的に働きかけをしていく。また、家族が担っていただける部分はケアプランにも記入し、一緒に本人を支えるという思いを今後も共有していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時の面接だけでなく、面会時やケアプランの意向確認の時など、折に触れて、本人との関係を聞いたり希望を聞きながら、本人との関係性を援助している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出はなかなかできていないが、話をしたり、知人が面会に来てくれたときに話題提供をするなどに努めている。	○	職員の配置等で、本人が希望する喫茶店などにはなかなかでかけられない。計画的に外出支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格やその日の状態に応じ把握し、一人の時間を大切にしたり、利用者同士が話したり作業ができるような配慮を心がけている。洗濯物を一緒にたたんだり、することで利用者同士が刺激になり意欲が高まることもあるので、雰囲気つくりには配慮している。	○	今後も利用者同士がお互いを理解し、孤立しないような働きかけを職員で話し合っていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院したまま、退所となるケースが多いが、入院先に見舞いに行ったり、家族に「手助けできることはします」というメッセージを伝えるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望を聞くが、時間の経過とともに希望等が変化することもあるので、プラン作成時や本人の身体状況が変化したときは、意向の確認に勤めている。ただ、言葉での確認が困難な利用者は、日々の表情や何気ない言葉からも把握するように努めている。意向に添えない場合は説明を行なっている。	○	利用者の思いとのずれがなるだけ無いように、話をしたり、日常の動作等から把握できるよう、職員が情報を共有していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族からの情報を元に把握に努めている。また必要がある時は、本人、家族の了解を求めて、介護支援専門員などの関係機関からの情報も把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランチェック表や記録を元に、状況の変化の把握に努めている。自立支援の観点から、法人内の看護職やリハビリスタッフと協力・連携し、残存能力の見極めに努力している。記録や申し送りなどで職員が情報を共有している。	○	法人内の関係職種との情報交換が定期的には行えておらず、カンファレンスの持ち方等を検討していく。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	基本的には３ヶ月ごとに、ケアプランを見直している。家族の意見や本人の意向が確認できる場合は、本人の意向も反映したプランに勤めている。	○	週３回のショートカンファレンスを行っているが、有効に活用しケアプランに反映できるように定着を図る。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ショートカンファを利用し、なるべく状況に応じたプランを作成するように勤めている。間に合わない場合は、申送や業務日誌を活用し、現在のケアを周知するようにしている。新館は、利用者・家族にも出来るだけカンファレンスにも参加してもらっている。		状況の変化に即応できるように、計画作成担当者の勤務の融通を図る必要がある。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の方法を見直し、ケアチェック表を活用して、必要な記録が確実にできるようにした。看護・介護が同じ用紙に記入できるようにしたことで、情報の共有化に役立っている。また、ケアプランの作成時にも活用している。	○	すべての職員が必要に応じた記録が取れているとは言いがたい。記録の必要性と何を記録知るかを再確認していく作業は必要。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所自体は色々の機能はないが、法人内の病院等との連携により、医療的・リハビリ的には柔軟・迅速な対応ができていると思われる。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設内にボランティアがきて、琴の演奏などレクリエーション的な楽しみは提供できたと思う。ただ、個人に合わせて、地域の社会資源は活用できていない。	○	本人の意向を取り入れながらできるだけ、村の行事に参加するなどして、地域の協力を得るようにする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要があれば、地域包括支援センターの協力は得られ、情報交換も行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に通院している。基本的には家族に通院支援をお願いしているが、緊急時や夜間などは職員が対応。同一敷地内にある病院の協力があるので、夜間でも緊急対応が可能。家族も今の体制を望んでいる。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体となる病院に認知症の専門医がおり、職員は必要に応じてアドバイスが受けられる。また利用者も必要に応じ治療を受けている（ほとんどの利用者に、専門医が関わっている）		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院の外来師長が月～金に訪問あり、必要に応じて相談やアドバイスが受けられる。また医師との連絡も図ってくれる。休日・夜間ともに病院の当直看護師や医師の指示が受けられ、必要時は往診もある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人内の病院では情報交換が日常的に行荒れている。われ、早期の退院に向けての協働体制がとれている。他の病院に入院したときは、相談室などを通し、情報提供を受けて、退院に向けた受け入れ態勢を整えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの指針は入所時に家族に説明しているが、そのときの状況に応じ家族や看護師と話し合いを　している。医師の説明時に、職員が付き添う等して、家族の気持ちの整理を支援したり、職員も情報を共有し、本人や家族の気持ちの変化や思いに沿うように支援を心がけている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療的な行為は病院の協力がないとできないので、どこまでできるかを、ケースごとに検討している。本人や家族の意向を確認しながら、看護師、医師と相談をしている。	○	現在までは、グループホームでの見取りはないが、個々の体調や健康を考慮しながら、どこまでの対応が可能かを今後もケースごとに検討していく。また早期の実現は困難と思うが、看護師の配置等も検討課題。利用者の医療ニーズの高まりにより、職員が重度化、終末期への漠然とした不安があるので、職員間でどこまでの対応が可能かの話し合いも必要。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までのなじみの家具や家財道具、写真などを持ってくることの大切さを家族にも理解してもらい、必要があればケア関係者にも説明をしてもらう。利用者が孤立しないように、生活暦や趣味などを職員が共有し、ケアプランに沿って統一したケアを心がけている。また、居場所が早く作れるように、他の利用者との交流なども支援している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	命令口調や制止にならない言葉賭けをグループホーム会などで検討している。また子供扱いしたような言葉賭けをしているときは、日常のケアの中で管理者等が注意をしている。記録に書くときは、他の利用者はアルファベットを使うなどの配慮をしている。	○	今後も研修愛への継続的な参加。グループホーム内での言葉賭けの研修などの継続。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声賭けを行い、ゆっくりと話をしたり、短文で説明をしたりすることを心がけている。日常の中で、飲み物の選択や果物の選択など、自分で決めることができる機会を持つようにしている。また、意思決定ができ、希望が話せる利用者にはできるだけ話を聞きながら、自分で決める機会を作るようにしている。	○	職員も忙しいと、職員ペースになることがあるので、今後も研修や日々のケアの中で意識付けをしていく。特に、「自分で決める」場面を日常の中に多く取り入れる工夫を話し合う。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活の流れを大切には心がけているが、つい職員ペースになることがあるので今後も注意を促したい。本館は、入浴日を週三回から月～土曜日にして、一日の入浴者を少なくすることで利用者が以前よりもゆったりと入浴できるようになった。	○	本館：利用者の一日の流れ、２４時間の生活の継続性を考えながら職員の業務を見直していく。グループホーム会で検討をしていく。職員の配置の都合で、利用者主体に流れないことがあるので、時間はかかるが職員の配置の検討も必要。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力の元、なじみの美容院などに出かける利用者も居るが、職員の配置の都合で全員は出かけられてない。衣服はできるだけ自分で選んでもらっている。ただ本館の利用者は、はっきりと意思表示ができない方も居るので、職員が今までの趣味等から判断することが多い。		理容師が定期的に来ており、今では馴染みの関係になっている。今後も同じ人が継続して来てくれるように理容店に理解をしてもらうことも必要。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	新館は、一緒に調理をすることもあるが、本館は２人くらいしか一緒に準備をできる人が居なくなっている。ただ、『この箸はだれそれの・・』と口での参加をしてくれる利用者も居るので職員が問いかけながら準備をしたりしている。また献立を相談したり、果物を切ってもらったり、買い物にいったりとできる事はしてもらうようにしている。		摂食能力や嗜好もまちまちなので、能力に応じた形態を工夫している。また本人の能力に応じ、適宜介助している。本人が嫌いなものが出たときは、代わりの惣菜を準備したり、本人が買ってきたものを食べてもらったりしているので、今後も利用者に即した対応をしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒の該当者は居ない。タバコは職員が管理しているが、本人が欲しいときにはいつでも出せるようにしている。おやつに関しては、個人で楽しんでいる利用者も居るので、職員と一緒に買い物に行って買うもののアドバイス等をしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のサイン（行動）や排泄時間を把握し、それぞれにあった排泄誘導をしている。また、本人ができる動作は本人にしてもらい残存能力の活用を心がけている。	○	ケアの手順などをケアプランで確認しているが、急に変更になったときなど抜かりがあり、利用者を混乱させるときがある。申し送りなどで徹底をしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	新館は、見守りや一人で入浴できる利用者が多いので、時間帯も夕食前など希望に沿うようにしている。本館は、ほとんど全介助の利用者が多いので、職員の話し合いで毎日の入浴を行っている。このために、個人の要望や体調などに沿うことが可能となった。	○	本館は、脱衣場や浴室が車椅子では狭く、環境整備を検討中。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の状況を把握し、その時々の状況にあった入床を心がけている。また、体力的に休息が必要な利用者は日中臥床してもらう等を配慮している（看護師のアドバイスを参考）。夜間眠れない場合は、温かい飲み物を提供しソファーで一緒にすごすなど落ち着く環境を配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみ、買い物や食器片付けなど今までの生活の中で、本人の力が生かせるように支援している。また、散歩や移動パン屋さんでの買い物など、本人の楽しみが持てるよう配慮している。	○	グループホーム内の仕事は限られており、また身体介護に時間がかかり、作業ができる利用者に十分に関われないことがある。暖かくなると庭の手入れなども取り入れて、今までの生活習慣を行かせるような関わりをしていきたい。また一人一人の楽しみなどを把握し切れてないので、「生活を知る」事の大切さを職員と検討する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本館は、ほとんどグループホームで管理しているが、１名は小額を家族が持たせている。持つことで安心しているようなので、実際の支払いは預かり金から行う。新館は自己管理できる利用者は、小遣い程度を自己管理している。お金の出し入れを職員と一緒に行い、買い物などのアドバイスも行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ散歩や買い物に出かけるようにしている。冬季は屋内が中心だったが、暖かくなると本人の状況に応じて散歩を行う予定。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年の夏は希望者を募り、大衆演劇鑑賞に出かけた。今年の正月は、利用者の住んでいた神社に初詣に出かけたりしたが、全員の希望には添えてない。	○	全員が出かけられるように、計画的に検討をしていくことが必要。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自室に設置している利用者もおり、家族から係ってきたりもする。応対に自信がないときは本人が職員に応援を求めるので、職員が対応したりしている。また、他の利用者も事業所に家族・知人から電話がかかることもあり、話ができるように職員が手助けをして居る。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が来てくれたときは、ホールや居室など好きなところで談笑してもらっている。職員も気軽に声をかけて話の中に入ることもある。また、ホーム便りに近況を書き込むことで、関係を密にしてもらうように勤めている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年５月に退院してきた利用者の転倒予防にベッド柵を２本使用（片側壁）。記録はとり、状況の確認ができたので１０日程度で１本とする。また転倒の危険性が高い利用者は家族・本人の同意を得てコールマットを使用している。	○	身体拘束はなるべくしないようなケアを心がけているが、職員が「身体拘束」の行為すべてにおいて理解しているとはいえない。研修を行う必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけてないが、出入りの度にチャイムが鳴るようにはなっている。職員も鍵をかける弊害については研修等でも理解している。外に出て行こうとする利用者については、見守りで対応ができないときは一緒に敷地内を散歩するなどしてケアに工夫している。	○	ある程度の理解は全職員がしているが、研修等で徹底をする必要がる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ場所で記録や事務作業を行っている。さりげなく利用者の状況把握を行うように努めるている。夜間も数時間後とに居室を訪室し安全確認をしている。また、夜間は本館・新館ともに１名の職員がおり、緊急時はお互いが協力し合うことが可能。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	化粧水を飲みそうな利用者は預かっているが、自分で管理できる利用者は居室で利用している。また歯磨きチューブなども、居室においているがすぐに目につかない開閉式の棚に置くなどの工夫をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行方不明に対しては、母体が精神科の病院でもあることから対応マニュアルがある。転倒・窒息・誤薬などに関しても基礎的な知識は研修をしており、インシデントが発生したときは報告書を作成し、原因の分析等を話し合い対策を検討している。	○	知識としては学習しているが、全員が十分に対応できるまでにはなってない。またインシデント報告書も共有はしているが、「対策委員会」などでさらに検討し、対応策も徹底する必要がある。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員がすべて訓練を受けているわけではなく、現在は外来の看護師や当直看護師に連絡し指示を受けている。病院への緊急連絡マニュアルは作成済み。	○	機会があるごとに救急対応の訓練を職員に受けさせる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年２回開催。母体病院の緊急連絡網での支援が得られるようになっている。消防署も訓練時は指導に来てくれるために色々とアドバイスをもらっている。昨年は地域の「防災士」のアドバイスをうけた。防災士の協力で、携帯電話の手動充電器も準備できた。	○	夜間の避難訓練や消化機器、消防署への連絡などを計画的に開催する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や離設などの予測されるリスクについては入居時に家族に説明し、対応などの同意を得ている。また職員が所在を確認する等、利用者の動きにあわせた配慮をしている。必要以上の規制などはなるべくしないようにしているので、それに対する転倒などについても、状況に応じて家族に説明をしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、利用者の行動や表情食事の摂取状況などから個々の体調には気をつけている。看護師が毎日様子観察に来てくれるので、体調の変化が気になる利用者はアドバイスを受け、必要に応じ受診援助をしている。記録や業務日誌などで職員間の情報を共有し、必要な処置や対応を周知している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等で薬の効果や副作用などは確認している。特に副作用などが心配されたり、経過観察が必要な場合は看護師より注意事項などの説明を受け、看護師が来たときに譲許具確認をしてもらっている。用法や容量は職員が確認し、食事ごとに利用者に手渡したり、服薬介助をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	法人内の管理栄養士に定期的に献立表の指示、アドバイスを受けている。繊維質の多い食品を使ったり、水分摂取に気をつけている。また個人個人の排泄状況を把握し、プルーン入りの飲み物なども工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後に行っている。週に１回は義歯を洗浄剤で洗っている。口腔ケアは全介助ではなく、本人の能力に応じて支援をしている。ただ本館は、口腔ケアの意味を理解できない利用者が多く、全介助を行うことが多いが、口をあけてくれない等で困難なこともある。	○	歯科衛生士の資格を持つ職員を中心に、個人にあった口腔ケアの学習会等を検討していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経口摂取が困難になってきた利用者は、看護師や栄養師と相談しながら、栄養補給を行ってきた。また食事・水分チェック表で一日のトータル量を把握し、量が少ないときは捕食や水分補給を行っている。とろみ剤やゼリーなども取り入れて、食べやすい形態も工夫している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	法人内やグループホーム内で、感染症の対策学習会を行ったり、母体病院との情報共有で予防策の徹底を図っている。職員が感染源にならないように、うがい、手洗いのみならず、消毒液を携帯している。感染症対策強化期間中は通勤着と仕事着の更衣を行っている。インフルエンザワクチンは、利用者、職員ともに全員接種済み。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士からアドバイスをもらいながら、食材の管理を行っている。週に２～３回は買い物に行き、野菜は訪問販売があるために生鮮食品の買い置きはあまりしていない。台所用品もハイター消毒したり、本館は食器乾燥機で食器の殺菌もしている。またランチョンマットなどは食事ごとに洗って清潔を保つようにしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札を掲げ、玄関周囲はベンチを置いたり、利用者と花を植えたりしている。また玄関には職員が自宅から持ってきた季節の花なども飾られている。	○	身体的なケアが多くなり、職員が玄関周囲の草引きや掃除に手が回らなくなっている。暖かくなれば、職員配置を検討し、草引きなどもしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のご飯の炊ける匂いや食器を洗う音、季節の食材を使った料理や季節の花を生けるなど、季節感や生活感が出せるように工夫している。また、新館のホールに日差しが強いときなどはカーテンで遮光するなどの工夫もしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーが利用者の社交場になっており、ひとりになりたいときは玄関横の椅子に腰をかけたりしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを家族にお願いして持ってきてもらっている。仏壇を持ってきている利用者もおり、画一的な装飾にならないように配慮している。また、居室の掃除もできる利用者には、できるだけ自分でしてもらっており、物品の配置も利用者が使い勝手がいいように置いてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度計を設置し、職員の体感温度にあわせるのではなく入居者の健康に合わせた温度を心がけている。夏場は窓を開けて外の空気を入れるようにし、冬場は加湿器をホールにおいてある。また、居室には夜間、濡れタオルを下げるなど湿度を保つように心がけている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の要所には手すりを設置し、居室のドアは引き戸にしている。廊下には何もおかないようにしているので、車椅子でも一人で移動できている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本館は、自分で洗濯物を管理できる利用者には、自室前に洗濯物を干すなどして、自己管理できるようにしている。新館は、金銭管理もできる利用者がいるので、職員と一緒に出納帳をつけたり、買ってきたお菓子などを一緒に整理したりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	新館の利用者と職員が花を植えたことで、本館の車椅子の利用者がその花を見て楽しむ機会が持てている。夏はビーチパラソルをおいてベンチで外を眺めることもしている。	○	建物の周囲は夏は雑草が茂っており、利用者が歩くのに危険な場所がある。雑草駆除などで環境整備が必要。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

○職員の笑顔が多いと家族や来訪者が言ってくれる。個々の利用者のペースを守り、職員が家庭的な雰囲気つくりを心掛けている。
○母体の病院が敷地内にあることで、緊急時は夜間や休日に関わらず対応が可能であり、利用者の健康管理のみならず家族の安心感にもつながっていると思う。
○職員研修では、年間計画の中で全員が参加できるように配慮し、虐待に関する研修を中心に外部研修にも参加。職員のスキルアップにつながったと思う。
○利用者一人ひとりのペースで生活できるように、スタッフ同士で話し合い、協力し合っている。
○困った事などは、職員一人で抱え込まないように話し合う機会を持つように努力している。
○利用者の笑顔が絶えない、心休まる場であって欲しいとの思いで利用者と接するように心がけている。